

ふじわ せきぞうほうきょういんとう
54. 藤和・石造宝篋印塔

■ 指定日

昭和53年10月19日

■ 種別

有形文化財 建造物

■ 年代

南北朝時代

■ 所在地

朝来市和田山町藤和

■ 所有者

藤和区



■ 内容

藤和区の杉林の中に立つ。花崗岩製で、台石上の各辺には二葉の複弁の反花座と格狭間上に彫られた各辺一葉の反花は、共に丸みをもっている。

正面の格狭間の中には、宝瓶三茎蓮華文を浮彫りにしている。また、塔身部(軸石)には金剛界四方仏種子を表した梵字を配し、月輪部全体を掘り込んだ珍しい手法で、但馬ではほとんどその例をみない。笠の隅飾りの輪郭は、二弧でやや開き、相輪も下の請花を複弁に、上の請花を単弁にして全容の調和を図っている。

宝珠部の欠損が惜しまれるが、南北朝時代の特徴をよく表しており、数少ない優れた石造遺品として注目される。